

ĐỐI CHIẾU TỰ ĐỘNG TỪ VÀ THA ĐỘNG TỪ TRONG TIẾNG NHẬT VÀ TIẾNG VIỆT

Nguyễn Thị Minh*

Việc phân biệt tự động từ và tha động từ rất ít được đề cập đến trong các nghiên cứu tiếng Việt và nghiên cứu đối chiếu. Định nghĩa về tự động từ, tha động từ và tiêu chí phân biệt tự động từ, tha động từ chưa được làm rõ. Trong báo cáo này, chúng tôi sẽ làm rõ đặc điểm, tiêu chí phân biệt tự động từ và tha động từ trong tiếng Việt. Trên cơ sở đó, chúng tôi sẽ làm rõ điểm giống nhau và khác nhau về đặc điểm ý nghĩa, đặc điểm hình thái, đặc điểm cú pháp của tự động từ và tha động từ trong tiếng Nhật và trong tiếng Việt.

Từ khóa: Tự động từ, tha động từ, câu bị động trực tiếp, đặc điểm cú pháp, đặc điểm ý nghĩa.

Few contrastive studies have been conducted on the distinction between intransitive verbs and transitive verbs in the Vietnamese language. To void this research gap, this study aims to clarify the characteristics of intransitive verbs and transitive verbs in the Vietnamese language as well as criteria to distinguish them apart. On that basis, it sheds light on the similarities and differences in semantic, morphological and syntactic characteristics of intransitive verbs and transitive verbs in Japanese and Vietnamese.

Keywords: intransitive verb, transitive verb, direct passive sentence, syntactic features, meaning feature.

日本語・ベトナム語の自動詞・他動詞の対照研究

0. はじめに

日本語の自動詞・他動詞に関しては、現在まで数多くの研究が行われてきた。日本語の代表的な研究として、山田（1922）、佐久間（1936）、奥津敬一郎（1967）、沼田（1989）などがある。対照研究の観点からも、日本語教育の観点からも多くの研究が行われてきた。日本語教育の分野において、自動詞・他動詞の研究の代表例は中石（2003）、杉村（2013）などである。また、中国語、英語

との対照研究が多く行われてきたが、ベトナム語との対照研究はまだ少ない。

ベトナム語では、自動詞・他動詞に該当する概念があまり言及されていない。ベトナム語の動詞の他動性に関して、Diep Quang Ban（2008）は多少言及しているが、まだ明確に自動詞・他動詞を区別していない。日本語・ベトナム語の使役文を対照した Nguyen Thi Ai Tien（2014）では、ベトナム語の自動詞・他動詞に多少言及されているが、自動詞、他動詞の区別の基準及び自動詞・他動詞の特徴に関してはまだ明らかにされていない。

本研究では、ベトナム語の自動詞・他動詞の特徴を明らかにしながら、日本語

* ThS., Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội

Email: minhntjp@hanu.edu.vn

の自動詞・他動詞との共通点・相違点を明らかにする。

1. 日本語の自動詞・他動詞の研究

日本語の動詞は「有対自動詞・他動詞」「無対他動詞」「無対自動詞」に分類されている。早津（1989）によると、「壊す、伸ばす、かける、はずす、埋める、回す、決める」などは、各々「壊れる、伸びる、かかる、外れる、埋まる、回る、決まる」に対応する有対他動詞であり、「置く、悲しむ、話す、考える、占める」などは無対他動詞である。また、無対自動詞は「行く、来る、ある」などである。

形態的特徴に関しては多数の研究者によると、有対自動詞・他動詞が共通の語幹を持つとされてきた。有対自動詞・他動詞に関して、佐久間（1936）によると、「割れる－割れる」の「war-」、「建てる－建つ」の「tat-」のように共通する語幹を持つ動詞対に関しては、「す」で終わる動詞は他動的、「る」で終わる動詞は自動詞的である。

統語的特徴として、奥津（1967）、寺村（1982）、松岡&その他（2000）によると、目的語としての「を」格名詞（それを主語とした受身文が成立する）をとるものを他動詞、その他を自動詞である。また、寺村（1982）が他動詞と受け身文の関係を考察した結果、他動詞は方向性が強い動詞である「やる、くれる」、受動的意味を持っている「受ける」類の動詞以外、直接受け身文になりえる。自動詞は直接受け身文になりえないものである。

意味的特徴に関して、松岡&その他（2000）は「自動詞と他動詞の違いは、自動詞の場合は、自然力の影響などによって出来事が起こったのであって、そこには人間などの意志（意図）は含まれていないととらえられていないのに対して、他動詞の場合は人間などが意志（意図）的にその出来事を引き起こした、ととらえられているというところにあります。」と述べた。

また、寺村（1982）の考察結果から、日本語の他動詞と自動詞は下記の意味を表しているといえる。

表1：他動詞

意味	動詞
物理的影響（外形、数、質の変化等）を表す（物理的働きかけ、「変える」類の動詞）	殺す、育てる等 増やす、変える、減らす等
心理的影響を表す（心理的働きかけ、能動的な心の動き、積極的感情の発動の感情の動詞、態度・感情を表す「対面、あるいは対象に対する態度を表す動詞」）	愛する、嫌う、見る、聞く等 喜ぶ、苦しむ、楽しむ、懐かしむ 恋する、好く、好む、嫌う、望む
創る行為を表す	創る、書く、掘る、映す、建てる等
位置の変化を表す（「入れる」類の動詞）を表す	入れる、届ける、乗せる、通す、集める、泊める、浮かべる等
所有権の移動を表す（「受ける」類、「与える」類、やる、もらう、くれる」類の動詞）	教わる、受ける、見つかる、教える、あげる、やる、もらう、くれる等
思考・言語の活動を表す（コトを補語としてとる動詞、「命じる」類）	言う、思う、考える等 命じる、命令する、要求する、進める、説明する等

¹ 筆者が寺村（1982）からまとめる。

表 2 : 自動詞²

意味	動詞
対面を表す 「相互動作」に一步近づき、それゆえ相手が（片方の）「～ト」という形をとる「対面、あるいは対象に対する態度を表す動詞」	会う、相談する、当たる等
相互動作を表す	戦う、結婚する等
移動を表す	行く、来る、入る、出る等
感情を表す （一時的な気の動きを表す感情の動詞）	驚く、おびえる、ぎょつとする等
存在	ある、いる、存在する等

本稿では、寺村（1982）及び松岡&その他（2000）を踏まえ、日本語の自動詞・他動詞をベトナム語の自動詞・他動詞と対照する。

2. ベトナム語の自動詞・他動詞の研究

自動詞・他動詞に言及したベトナム語の動詞の研究では、Diep Quang Ban（2008）、Nguyen Thi Ai Tien（2014）がある。

Diep Quang Ban（2008）によると、ベトナム語では、動詞が虚語の動詞（Động từ tình thái）と実語の動詞（Động từ thực）に分類されている。虚語の動詞は日本語の「られる」「させる」「たい」等と同様に、受け身文、使役文、モダリティ等を表す。

実質語の動詞の分類に関して、Diep Quang Ban（2008）は支配される実質語を基準にして、動詞を“Động từ chuyển tác/Động từ không chuyển tác”（他動詞/自動詞）“Động từ chỉ hướng”（方向動詞）“Động từ tự di chuyển/ động từ di chuyển vật”（物自体の移動を表す動詞/ものを移動させる意味を表す動詞）“Động từ đòi hỏi hai bổ ngữ”（二つの補語を要求する動詞）

“Động từ chỉ hiện tượng tâm lý”（心理現象を表す動詞）“Động từ tồn tại”（存在動詞）という六つのグループに分類した。

また、他動詞、自動詞に関して、Diep Quang Ban（2008）は下記のとおりに定義した。

Động từ thực thường được xem xét về khả năng chi phối các bổ ngữ về mặt nghĩa. Xét theo khả năng này có sự phân biệt động từ chuyển tác (ngoại động) và động từ không chuyển tác (nội động). Động từ không chuyển tác là động từ không tác động đến thực thể khác, mặc dù vẫn có thể đòi hỏi thực thể nào đó để làm trọn vai nghĩa của nó.

Động từ chuyển tác là động từ truyền tác động nêu ở nó đến thực thể chịu tác động đó, làm cho thực thể đó hoặc biến đổi, hoặc hình thành, hoặc bị khai quật, hoặc bị di chuyển.

Diep Quang Ban（2008）

（和訳：実質語の動詞は補語に対する動詞の意味的支配に基づき分類されている。補語に対する動詞の支配により、実質語の動詞は他動詞及び自動詞に分類されている。自動詞は対象に働きかけをしないものであるが、補語を請求する場合もある。

³ 筆者が寺村（1982）からまとめる。

⁴ Diep Quang Ban（2008）の用語と筆者の和訳である

他動詞は対象を変化、形成、掘り出し、或いは移動させるように動作を行う意味を表すものである。)

Diep Quang Ban (2008) は“Động từ đòi hỏi hai bổ ngữ” (二つの補語を要求する動詞) (Pha (入れる)、Trộn (混ぜる))、 “Động từ chỉ hiện tượng tâm lý” (心理現象を表す動詞) (Biết (知る)、giận (怒る) 等)、 “Động từ tồn tại” (存在動詞) (Có (ある)、 còn (残る)、 Hiện ra (出現する)、 nhô ra (出る) を除き、

、他動詞であるのか自動詞であるのかを多くの動詞のグループの特徴として明確に指摘した。意味的特徴だけではなく、目的語、二項の目的語を取るか否かという統語的特徴も指摘されてきた。言い換えれば、完全に自動詞・他動詞を基準にして分類した研究ではないが、Diep Quang Ban (2008) が指摘した動詞の意味的特徴・統語的特徴をベトナム語の自動詞・他動詞をの特徴の一部だといえるだろう。

次に、日本語・ベトナム語の自動詞・他動詞の対照研究である Nguyen Thi Ai Tien (2014) を見てみる。まず、Nguyen Thi Ai Tien (2014) によると、ベトナム語では自動詞・他動詞の分類の仕方の一つとして、目的語を取るか取らないかによって自動詞・他動詞を分けるという方法がある。自動詞は目的語を取らないが他動詞は目的語を取る。例えば、“cửa mở” (ドアが開いている)、“anh ấy ngủ” (彼は眠っている) は目的語を取らないため自動詞ということになる。そして、ベトナム語では、一般的に自動詞は受身文にもならない。一方、“tôi ăn cơm” (私はご飯を食べる)、“Taro giết hổ” (太郎は虎を殺した。) では“ăn” (食べる)、“giết” (殺す) は“cơm” (ご飯)、“hổ”

(虎) 等の目的語を取ることができる他動詞である。そして、このような他動詞は受身文になることができる。

しかし、Nguyen Thi Ai Tien (2008) では、次のとおりに所在問題がある。Nguyen Thi Ai Tien (2008) によると、上記の方法は自動詞であるか、他動詞であるか区別できない場合もある。

1) ⁵a. Anh ấy khóc.

彼 泣く

(彼が泣く。)

b. Anh ấy khóc mẹ.

彼 泣く 母

(直訳：*彼が母を泣く。)(彼が母のことで泣く。)

Nguyen Thi Ai Tien (2008) によると、例 3) a では“khóc”「泣く」は目的語を取らないので自動詞であるが、3) b では“mẹ”「母」という目的語を取るので、他動詞としても解釈できる。Nguyen Thi Ai Tien (2008) の上記の説明は妥当であるか議論の余地がある。ここで、“mẹ”「母」が本当に目的語であるのか、“khóc”「泣く」が本当に他動詞なのか議論の余地がある。ベトナム語の動詞は自動詞としても、他動詞としても使用される動詞が多いが、“khóc”「泣く」は無対自動詞だと主張する。また、“mẹ”「母」目的語の位置に置かれているが、目的語ではないと主張する。

また、Nguyen Thi Ai Tien (2008) によると、以下のような動詞も目的語を取るか否かの基準で自動詞と他動詞の区別をするのは難しい。

⁵ 例 1 から例 5 までは Nguyen Thi Ai Tien (2008) から引用した例である。

2) Anh ấy ăn đũa.

彼 食べる 箸

(直訳: *⁶ 彼は箸を食べる) (彼は箸で食べる)

3) Cô ấy ngủ giường.

彼女 寝る ベッド

(直訳: *彼女はベッドを寝る) (彼女はベッドで寝る)

Nguyen Thi Ai Tien (2008) は「このように、日本語では純粋な自動詞であるが、ベトナム語では場合によって自動詞としても他動詞としても使われる。また、道具が目的語の位置に来る場合もあるので、ベトナム語では、目的語があるか否かで自動詞か他動詞かの判断をすることは難しい。」と説明した。

「ベトナム語では、場合によって自動詞としても他動詞としても使われる」のは妥当であるが、上記の “ăn” (食べる) “ngủ” (寝る) に当てはまらないと考えられる。“Ăn” (食べる) が日本語と同様に無対他動詞で、“ngủ” (寝る) が無対自動詞であると考えられる。上記の (ベッド) が目的語ではなく、道具であるため、“ngủ” (寝る) が他動詞として使用されると言えない。また、“đũa” (箸) が目的語とも道具とも解釈できる。“Anh ấy” 「彼」という人物は通常の間人であれば、“đũa” (箸) が道具と解釈されるが、宇宙の人で、木食い虫と同じように、“đũa” (箸) を食べ物にする人である場合に、“đũa” (箸) が目的語である。どちらの場合においても、“ăn” (食べる) が他動詞で、自動詞ではない。つまり、道具及び目的語ではない名詞が目的語の位置に来る場合にどの方法で他動詞・自動詞を判

断するのか、どのような方法で目的語又は目的語ではないものを区別するのか明らかにすべきである。

また、Nguyen Thi Ai Tien (2008) はベトナム語においては、語順で自動詞か他動詞かを定めることができると述べている。多くの場合、同じ動詞が自動詞としても他動詞としても用いられる。普通は「NP2 V」の語順の場合は自動詞であるのに対して、「NP1 V NP2」は他動詞である。

4) Buổi họp kết thúc.

会議 終る

(会議が終わった)

5) Kết thúc buổi họp.

終える 会議

(会議を終えた)

しかし、語順で自動詞・他動詞を区別するのはすべての動詞に適用できるわけではない。上記の “ăn” (食べる)、“ngủ” (寝る)、“khóc” (泣く) は語順で自動詞・他動詞を区別できない。つまり、どんな場合に、語順で自動詞・他動詞を区別するのかを明らかにすべきである。

本稿では、ベトナム語の自動詞、他動詞の特徴、自動詞・他動詞の区別基準を再考察する。

3. ベトナム語の自動詞・他動詞の再考察

自動詞・他動詞の観点から、ベトナム語の動詞は日本語と同様に、「有対自動詞・他動詞」「無対他動詞」「無対自動詞」に分類されると思われる。有対自動詞・他動詞は二つの種類がある。まず、自動詞・他動詞が同一の言葉である。次に、自動詞と他動詞が異なる言葉である。

⁶ *は非文の印である。

表3：ベトナム語の自動詞・他動詞

有対自動詞・他動詞	自動詞・他動詞が同一の言葉である	mở (開ける/開く)、đóng (閉める/閉まる)、bật (つける/つく)、tắt (消す/消える)、đỗ (止める/止まる)、tăng (増やす/増える)、giảm (減らす/減る) ...
	自動詞・他動詞が異なる言葉である	自動詞 ↔ 他動詞 chìm (沈む) ðìm (沈める) gãy (折れる) bẻ (折る) cháy (燃える) đốt (燃やす) rách (破れる) xé (破る)
無対他動詞	ăn (食べる)、uống (飲む)、viết (書く)、nghe (聞く)	
無対自動詞	đi (行く)、đứng (立つ)、ngồi (座る)、ngủ (寝る)、khóc (泣く)	

ベトナム語の自動詞・他動詞は統語的特徴として、他動詞は目的語を必須に要求し、直接受け身文を成立するが、自動詞は目的語を必須に要求せずに、直接受け身文を成立しないである。また、ベトナム語の他動詞が「S+V+O」構文を取り、自動詞が「S+V」構文を取るのが基本である。

まず、有対自動詞・他動詞を見てみる。この動詞グループの他動詞は主に物理的な影響を与える動作を表し、対応する自動詞はその動作の結果を表す。このグループの他動詞は二項の動詞もあり、三項の動詞もある。三項の動詞は日本語の寺村(1982)が提案した「変える」類と同様である。

自動詞・他動詞が同一の言葉である場合を見てみる。この動詞のグループは受け身文になり得るかどうかで、自動詞・他動詞が区別できないが、語順で区別できる。

- 6) ⁷a. Nam mở cửa
ナムさん 開ける ドア
S1 V O
ナムさんはドアを開けた。
b. Cửa bị Nam mở

ドア PASS ナムさん 開ける
ドアがナムさんによって開けられた。

- c. Cửa mở
ドア 開く
S2 V
ドアが開いている。

- 7) a. Giám đốc tăng lương cho nhân viên.

社長 増やす 給料 に 会社員
社長は社員に給料を増やした。

- b. Nhân viên được giám đốc tăng lương.

会社員 PASS 社長 増やす 給料

会社員は社長によって給料を増やされた。

- c. Lương tăng.

給料 増える
給料が増えた。

この場合に、同じ言葉であるため、自動詞であるか、他動詞であるか語順で区別する。他動詞が「S1+V+O」構文を取り、自動詞が「S2+V」構文をとる。自動詞の構文の主語 S2 は他動詞の構文の目的語 O に一致する。

⁷ 本稿の例は筆者の作例である。

これらの動詞のグループは Diep Quang Ban (2008) の“Động từ chuyển tác/không chuyển tác do sử dụng” (使用場面による他動詞・自動詞)、“Động từ tự di chuyển và di chuyển vật do sử dụng” (使用場面によって、もの自体の移動を表す動詞としても、ものを移動させる意味を表す動詞としても使用される動詞) に該当する。つまり、この動詞のグループの他動詞は物理的影響 (外形、質などの変化を及ぼす)、位置の変化を表す動詞である。自動詞はその動作の結果を表す。

次に、自動詞・他動詞が異なることばである。このグループの動詞は意味的な対立である。他動詞は物理的働きかけを表し、自動詞は他動詞の動作の結果を表す。

8) a. Tôi bẻ cành cây.

私 折る 枝

私は枝を折った。

b. Cành cây bị tôi bẻ

枝 PASS⁸ 私 折る

枝は私によって折られた。

c. Cành cây gãy.

枝 折れる

枝が折れている。

この動詞のグループは主に物理的影響を表す動詞である。これらの自動詞・他動詞は形態的特徴が異なるが、形態的特徴で自動詞であるか他動詞であるか区別できない。また、自動詞でありながら、「動詞+名詞」の構文を取る場合もある。

9) a. Anh ấy gãy chân

彼 折れる 足

彼は足が折れた。

10) a. Anh ta rách áo

彼 破れる シャツ

彼はシャツが破れている。

上記の例文では、“gãy” (折れる) 及び “rách” (破れる) は他動詞の構文の形であるが、他動詞ではなく、自動詞である。これらの動詞グループの自動詞・他動詞を区別する基準は受け身文である。他動詞は上記のとおり、受け身文になりえるが、自動詞は受け身文を成立しない。

11) b. *Chân bị/được anh ấy gãy.

足 PASS 彼 折れる

*足が彼に/によって折れられた。

12) b. *Áo bị/được anh ta rách.

シャツ PASS 彼 破れる。

*シャツは彼に/によって 破れられた。

上記の構文はベトナム語の大主語構文の一つと言える。「彼」と「足」「シャツ」の関係は所有関係で、下記のとおり、所有関係を明白に示す構文に置き換えられる。

11) c. Chân của anh ấy gãy.

足 の 彼 折れた

彼の足が折れた。

11) c. Áo của anh ấy rách.

シャツ の 彼 破れている。

彼のシャツが破れている。

次に、無対他動詞を見てみる。無対他動詞は物理的な影響を表す動詞、心理的な影響、感情、態度を表す動詞、創造を表す動詞、位置の変化を表す動詞、所有権の移動、思考・言語活動を表す動詞に分類されると考えられる。

⁸ PASS: PASSIVE (受け身形)

表4：ベトナム語の無対他動詞

動詞	例
物理的な影響を表す動詞	ăn (食べる)、uống (飲む)、hút (吸う)、viết (書く)、đánh (殴る)、pha (入れる)、trộn (混ぜる) 等
心理的な影響、感情、態度を表す動詞	kính trọng (敬う)、yêu (惚れ込む)、sợ (怖がる)、ghét (嫌う)、biết (知る)、nhớ đến (思う) 等
創る行為を表す動詞	chế tạo (製造する)、viết (書く)、sáng tác (書く) 等
位置の変化を表す動詞	mang (持っていく)、vác (担ぐ)、đặt (置く、乗せる)、kê (並べる)、treo (掛ける)、trồng (植える)、đá (蹴る)、khiêng (運ぶ) 等
所有権の移動を表す動詞	cho (あげる/与える)、biếu (差し上げる)、tặng (あげる)、dâng (差し上げる)、hiến (譲る)、viết (書く)、vay (借りる)、mượn (借りる)
思考・言語の活動を表す動詞	nói (言う)、báo (言う)、khuyến (勧める) 等

これらの動詞は目的語を必須的に要求し、直接の受け身文になりえるものである。下記の例 12)、13)、14) では、a) が能動文であり、b) が対応する直接受け身文である。

12) a. Thắng đánh Bảo.

タンさん 殴る バオさん

タンさんはバオさんを殴った。

b. Bảo bị Thắng đánh.

バオさん PASS タンさん なぐる

バオさんはタンさんに殴られた。

13) a. Mọi người kính trọng thầy giáo Nguyễn Đình Chiểu

皆 敬う 先生

グエンディンチエウ

皆は グエンディンチエウ先生を敬う。

b. Thầy giáo Nguyễn Đình Chiểu được mọi người kính trọng

先生 グエンディンチエウ

PASS 皆 敬う

グエンディンチエウ先生は皆に敬われている。

14) a. Hai người khiêng hòn đá.

二人 運ぶ 岩

二人は岩を運んだ。

b. Hòn đá được hai người khiêng.

岩 PASS 二人 運ぶ

岩は二人によって運ばれた。

つぎに、無対自動詞をみてる。無対自動詞は二者の相互的關係、主体の感情・感覚、主体の移動、姿勢、存在、出現・消滅、主体と主体の所有物の所有關係を表す動詞である。これらの動詞は受け身文になりえない。

表5：ベトナム語の無対自動詞

動詞のグループ	例
相互動作、対面を表す動詞	kết hôn (結婚する)、bàn bạc (相談する)、nói chuyện (喋る) 等
感情・感覚を表す動詞	buồn (悲しむ)、lo lắng (心配する)、phấn khởi (喜ぶ)、vui (喜ぶ)、đau (痛む)、ốm (病気になる) 等
移動を表す動詞	đi (行く)、chạy (走る)、trèo (登る)、chảy (流れる)、vào (入る)、lên (上がる)、xuống (降りる)、qua (渡る) 等
状態を表す動詞	ngồi (座る)、đứng (立つ)、ngủ (寝る)、thức (起こる) 等
存在の動詞	存在: có (ある、いる)、còn (残る) 所有: có (ある、いる、もつ) 出来事の発生: xảy ra (起こる)、diễn ra (行われる) 等

出現・消滅を表す動詞	mọc (木が育つ)、nhô ra (出る)、nhú (芽生える)、nở (咲く) 等 hết (無くなる)、mất (無くなる)、biến (消える) 等
------------	-----------------------------------------------------------------------------------

ベトナム語では、日本語の対格「を」に該当する前置詞がないため、目的語の位置に来る名詞が目的語であるか否かは認定しがたい。下記の通り、多くの場合に、目的語の位置に名詞があるが、自動詞であるため、直接受け身文になりえない。

14) Tôi đi Hà Nội

私 行く ハノイ

私はハノイへ行く。

b.*Hà Nội được/bị tôi đi

ハノイ PASS 私 行く

*ハノイは私に行かれる。

15) a. Tôi đi xe đạp

私 行く 自転車

私は自転車で行く。

b.*Xe đạp được/bị tôi đi

自転車 PASS 私 行く

*自転車は私に行かれる。

16) a. Anh ấy ngồi ghế

彼 座る 椅子

彼は椅子に座る

b.*Ghế được/bị anh ấy ngồi

椅子 PASS 彼 座る

*椅子は彼に座られる。

Nguyen Thi Ai Tien (2008) が言及した例も下記のとおり、直接受け身文の成立で自動詞であるのか他動詞であるのかを認定できる。

17) a. Cô ấy ngủ giường

彼女 寝る ベッド

彼女はベッドで寝る

b.*Giường bị/được cô ấy ngủ

ベッド PASS 彼女 寝る

*ベッドは彼女に寝られる。

18) a. Anh ấy khóc mẹ

彼 泣く 母

彼は母のことで泣いている。

*Mẹ bị/được anh ấy khóc

母 PASS 彼 泣く

*お母さんは彼に泣かれている。

上記の例では、全て直接受け身文に変えると、非文になるため、自動詞である。また、目的語の位置に来る名詞は所有物、目的地、手段、存在場所、原因などで、動詞の働きかける対象ではないため、目的語ではないと考えられる。また、自動詞の直後の名詞が原因、手段、存在場所、関係者である場合に、自動詞と名詞の間に、原因を表す前置詞“vì” (で)、道具・手段を表す前置詞“bằng” (で)、存在場所を表す前置詞“ở” (に)、二者関係を表す前置詞“với” (と) が存在している。

19) Anh ấy khóc vì mẹ

彼 泣く で 母

彼は母のことで泣いている。

20) Tôi đi bằng xe đạp.

私 行く で 自転車

私は自転車で行く。

21) Tiền có ở trong túi.

お金 ある に 中 ポケット

お金はポケットの中にある。

22) Hoa kết hôn với Nam

ホアさん 結婚する と ナムさん

ホアさんがナムさんと結婚する。

この特徴は自動詞のみに見られるが、他動詞には見られない。言い換えれば、他動詞と目的語の間に前置詞が存在しない。

つまり、ベトナム語の自動詞は目的語を取らず、直接受け身文にならないものである。一方、他動詞は目的語を取り、直接受け身文になりえる。意味的特徴として、他動詞は対象に働きかけ、変化をもたらすが、自動詞は主に主体の移動、感情・感覚、状態、二者の関係、主体と所有物の所有関係を表し、変化をもたらさない意味を表す。

4. 日本語・ベトナム語の自動詞・他動詞の共通点・相違点

上記の考察結果を踏まえ、下記のとおり、日本語・ベトナム語の自動詞・他動詞の共通点・相違点が見られる。

まず、共通点として、日本語の他動詞もベトナム語の他動詞も目的語をとり、直接受け身文になりえるが、両言語の自動詞は目的語を取らずに、直接受け身文になりえない。また、日本語の自動詞の構文とベトナム語の自動詞の構文は共通の語順をもっている。

日本語の自動詞	① ドア が 開いている S が V
ベトナム語の自動詞	② Cửa mở ドア 開く S V ドアが開いている

意味的特徴として、日本語においても、ベトナム語においても、他動詞も主に対象に影響を与える意味を表すのに対して、自動詞は自発的に出来事が起こったという意味を表す。他動詞は人間の意志を含意するが、自動詞は人間の意志を含意しない。両言語の他動詞は物理的影響、心理的影響、創る行為、所有権の移動、位置の変化、思考・言語活動を表す。また、両言語の自動詞は主体の移動、姿勢、感情・感覚、所有関係、存在場所などの意味を表し、人間及び物に変化をもたらさない意味を表す。

次は両言語の自動詞・他動詞の相違点である。まず、日本語の自動詞・他動詞は形態的特徴で区別可能であるが、ベトナム語の自動詞・他動詞は形態的特徴で区別できない。日本語では、対応する自動詞・他動詞は共通の語幹を持っているが、ベトナム語の対応する自動詞・他動

詞は共通の言葉であるか、意味的対立の別の言葉である。

日本語	ベトナム語
他動詞 自動詞 開ける 開く ak- eru ak-u (共通語幹：ak-)	mở (開ける／開く)
燃やす 燃える mo-yasu mo- eru (共通語幹：mo-)	đốt (燃やす) ↔ cháy (燃える)

日本語では、自動詞であるのか、他動詞であるのか、多数の動詞は直接受け身文の成立かどうかで区別できる。しかしながら、上述したように、ベトナム語においては、自動詞・他動詞が共通の言葉である場合に、自動詞であるのか、他動詞であるのかは語順でしか区別できない。

また、統語特徴として、日本語では、「ヲ格」で目的語が認定できるが、ベトナム語では、「ヲ格」で目的語が認定できない。また、日本語の他動詞の構文とベトナム語の他動詞の構文の語順が異なっている。日本語の他動詞の構文は「S が O を V」(猫が魚を食べる。)構文であるが、ベトナム語の他動詞の構文は「S V O」(Con mèo (猫) ăn (食べる) cá (魚))という語順である。

また、状態を表す構文の場合に、ベトナム語の自動詞は単独で状態を表すが、日本語の自動詞の構文は「～ている」文型で表す。

23) a. Cây đổ
木 倒れる
木が倒れる

b. 木が倒れている。

次に、日本語において有対自動詞・他動詞であるが、ベトナム語において、無対他動詞、自動詞である場合がある。

日本語	ベトナム語
<p>決める ↔ 決まる</p> <p>① 私は日本へ行く と決めた。</p> <p>② 日本へ行くことが決まった。</p>	<p>他動詞：quyết định (決める)</p> <p>① Tôi quyết định đi Nhật. 私 決める 行く 日本 私は日本へ行く と決めた。</p> <p>② *Việc đi Nhật quyết định, こと 行く 日本 決まる 日本へ行くことが決まった。</p> <p>③ Việc đi Nhật được quyết định. コト行く日本 PASS 決める 日本へ行くことが決められた。</p>
<p>溶かす↔溶ける</p> <p>① 私はアイスクリームを溶かした。</p> <p>② アイスクリームが溶けた。</p>	<p>自動詞：tan chảy (溶ける)</p> <p>① *Tôi tan chảy kem. 私 溶ける アイスクリーム *私はアイスクリームが溶けた。</p> <p>② Tôi làm tan chảy kem. 私する 溶ける アイスクリーム 私はアイスクリームを溶かした。</p> <p>③ Kem tan chảy. アイスクリーム 溶けた アイスクリームが溶けた。</p>

さらに、日本語では、他動詞であるが、ベトナム語では、自動詞である動詞もある。例えば、日本語の所有を表す「持つ」は他動詞である。

24) 彼は車を持っている。

Anh ấy có xe ô tô.
彼 ある／持つ 車
彼は車を持っている。

この二つの問題に関して、本稿ではまだ詳細に考察できない。所在問題として別稿で考察する。

5. 結論

本稿では、日本語・ベトナム語の自動詞・他動詞の形態的特徴、統語的特徴、意味的特徴の共通点・相違点を明らかにした。結論として、日本語においても、ベトナム語においても、有対自動詞・他動詞、無対他動詞、無対自動詞がある。また、他動詞は目的語をとり、直接受け身文になるのに対して、自動詞は目的語

を取らずに、直接受け身文にならないという共通の統語的特徴は両言語に見られた。さらに、意味的な特徴として、両言語において、他動詞は物理的働きかけ、心理的働きかけ、授受表現、位置の変化を表す動詞、コトを補語として取る動詞である。自動詞は変化の結果、主体の移動、感情感覚、姿勢、所有関係、存在、消滅・出現、出来事、相互動作を表す動詞である。両言語の自動詞・他動詞は上記の共通点を持っている一方、形態面、統語面において、様々な相違点を持っている。日本語の対応する自動詞・他動詞は共通の語幹を持っているが、ベトナム語では、共通の言葉である場合もあり、全く異なる言葉である場合もある。また、自動詞・他動詞を区別する問題、自動詞・他動詞の対応、自動詞の構文のアスペクトも両言語において、相違点が見られた。

本稿では、まだこの二つの問題を詳細に考察できなかった。さらに、本稿では、

単他動詞、単自動詞を中心に考察した。まだ、複合動詞を考察していない。これらの問題は別稿で考察する。

参考文献

1. 早津 恵美子 (1989) 「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」言語研究、1989 巻 95 号 p. 231-256.

Hayatsu Emiko (1989) 「Yutsuitadoshi to mutsuitadoshi no chigai nitsuite - imitekina tokuchou wo chuushinni」 - 1989 kan 95 gou p.231-256.

2. 松岡 弘、庵 功雄、中西 久実子、山田 敏弘、高梨 信乃 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、スリーエーネットワーク.

Matsuoka Hiromu, Iori Isao, Nakanishi Kumiko, Yamda Toshihiro, Takanashi Shino (2000) 『Shokyuu wo oshieru hito no tame no nihongo bunpou handobukku』, Suriieenettowaaku

3. 中石ゆうこ (2002) 「対のある自動詞・他動詞の取得研究の動向と今後の課題」『広島大学大学院教育学研究科紀要』、第2部、第52号、p167-174.

Nakaishi Yuuko (2002) 「Tsui no aru jidoushi tadoushi no shutokukenyuu no doukou to kongo no kadai」『Hiroshima daigaku daigakuin kyouikugaku kenkyuuka kiyuu』, dai 2 bu, dai 52 gou, p167-174.

4. 沼田善子 (1989) 「日本語動詞 自・他の意味的対応 (1) : 多義語における対応の欠落から」『国立国語研究所報告』、第96号、研究報告集、p193-215.

Numata Yoshiko (1989) 「Nihongo doushi Ji ta no imiteki taiou (1): Tagigo ni okeru taiou no ketsuraku kara」『Kokuritsukokugokenkyuujo houkoku』, dai 96 gou, kenkyuuhoukokushuu, p193-215.

5. 奥津敬一郎(1967)「自動化・他動化および両極化転形—自・他動詞の対応—」『国語学』70、国語学会、p46-66.

Okutsu Keichiro (1967) 「Jidouka Tadouka oyobi ryoukokukatenkei Ji・Tadoushi no taiou」『Kokugogaku』70 Kokugogakkai, p46-66.

6. 佐久間鼎 (1936) 『現代日本語の表現と語法』、厚生閣.

Sakuma Kamae (1936) 『Gendai nihongo no hyougen to gohou』, Koseikaku.

7. 杉村泰 (2013) 「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受け身の選択について、人為的事態の場合について」『日本語・日本語教育研究』、第4号、p153-170.

Sugimura Yasushi (2013) 「Chuugokugowasha ni okeru nihongo no yuutsuidoushi no jidoushi tadoushi ukemi no sentaku nit suite, jingitekijitai no baai nit suite」『Nihongo・nihongo kyouiku kenkyuu』, dai 4 gou, p153-170.

8. 寺村英雄 (1982) 『日本語のシンタクスと意味I』、くろしお出版.

Teramura Hideo (1982) 『Nihongo no shintakusu to imi I』, Kuroshio shuppan.

9. 山田孝雄 (1922) 『日本文法講義』東京宝文館.

Yamada Yoshio (1922) 『Nihonbunpou kougai』Toukyou Houbunkan.

10. Nguyen Thi Ai Tien (2014) 「日本語とベトナム語における使役表現の対照研究 : 他動詞、テモラウ、ヨウニイウとの連続性」『博士論文』、大阪大学、言語文化研究科言語社会専攻.

Nguyen Thi Ai Tien (2014) 「Nihongo to betonamugo ni okeru shiekihyougen no taishoukenkyuu: Tadoushi temorau youniiu to no renzokusei」『hakaseronbun』, Osaka daigaku, Gengobunkakenkyuka gengogaku shakaisenkou.

11. Diep Quang Ban (2008). Ngu phap tieng Viet, NXB Giao duc.

(Ngày nhận bài: 22/8/2022; ngày duyệt đăng: 26/10/2022)